

ポケットボードから証券取引端末まで 「パッケージ化」で接続サービスは裏方に

プロバイダー業界はいま、“安さ”や“品質の高さ”“コンテンツの充実”といった既存の評価基準での競争をよりいっそう激化させる一方で、それらとは異なる新たな価値を見いだそうとしている。ここで注目しておきたいトレンドが「サービスのパッケージ化」だ。「サービスのパッケージ化」とは、単なる「インターネット接続サービス」だけでなく、「ハードウェア」や「オンラインサービス」を組み合わせたもののことだ。

こうしたトレンドのきっかけとなったのはNTTドコモのメール専用端末「ポケットボード」だ。ポケットボードは、電子メールというオンラインサービスを使うための専用ハードウェアであり、プロバイダーは当初マスターネット以外はショートメールに限定されていた。機能やプロバイダーを限定することによってハードウェアの価格を抑えると同時に、これまで難しかった各種の“設定”も簡便化できた。これにより、それまでビジネス分野でパソコンを介して使われることの多かった電子メールが、女性を中心にプライベートの分野にも広く浸透したといえるだろう。

このような「パッケージ」は他にも、ツーカーセルラーの電子メール専用端末「カーラ」やプロバイダーのSo-netとNTTドコモ、シャープらの提携による電子メール専用端末「ポケットポストベツト」、NTTドコモがプロバイダーのアンジュネットと組んだ携帯電話専用デジタルカメラ「キャメッセプチ」、NTT-MEのオンライン証券取引向けの「DLJ directわくわくステーションパック」や、高齢者向けの「わくわくステーションパック」など枚挙にいとまがない。また、それとは別にハードウェアにはパソコンを使うが、はじめから特定のオンラインサービス向けに最適な設定をして「専用端末化」したタイプの「パッケージ」もある。加入者数が500万人を超え“日本最大”のプロバイダーとな

ったiモードも、1つの「パッケージ」といえるかもしれない。

変わるプロバイダーの役割

これからはこのように、単に「オンラインサービス」が使いたいという動機で“意識せずにインターネットを使っている”という人が増えてくるだろう。

こうした「サービスのパッケージ化」は、必ずしもプロバイダー主導で行われているわけではないが、インターネットユーザーの広がりによってその需要は今後ますます高まっていく。そのため、いずれは「パッケージ」専門のプロバイダーも登場してくるかもしれない。

また「パッケージ」の浸透により、プロバイダーの役割も次第に変わっていく。「パッケージ」における主役は「オンラインサービス」自体であるため、ハードウェアやインターネット接続サービスはそれほど重要ではなくなるからだ。携帯電話にみられるように端末は無料で、月々のオンラインサービス使用料のみで運営するビジネスモデルもあり得る。プロバイダーにはオンラインサービスの提供者から使用料が支払われ、ユーザーからは見えない裏方になるかもしれないということだ。あるいはプロバイダー自身がオンラインサービスを提供することにビジネスの重心を移すこともあり得る。これは、アプリケーションサービスプロバイダー（ASP）の台頭とも絡むが、単なる「インターネット接続サービス」から、アプリケーションも含めた各種のオンラインサービスの提供者へと、プロバイダーの役割が次第に転換していくきっかけとなるかもしれない。

いずれにせよ、今後はいかにハードウェ

アメーカーやオンラインサービスの提供者と提携して魅力的な「パッケージ」を提供できるかが、プロバイダーにとって1つの重要な課題になっていくだろう。

無料プロバイダーの登場

もう1つ注目のトレンドが、無料プロバイダーの登場である。無料プロバイダーといえば1996年に登場、翌1997年12月に倒産したハイパーネットが思い出されるが、1999年末からライブドアやオーリックがサービスを始めたのを皮切りに、現在数社がサービスを提供している（資料4-2-4）。無料プロバイダーは特に欧州で一般的で、その草分けともいえる英FreeServeなどは、1998年のサービス開始から半年ほどで100万人の加入者を得て英最大手になったほどだ。しかしそれは、英国では電話会社とのバックマージン契約が結べる環境だったことも大きな要因だ。日本においてはおもに広告が収益源となるが、中には特定の通販サイトで一定額の商品購入などの条件を付けているところもあるほか、各社とも今後はオンラインコマースでの収益を予定している。この無料プロバイダーは、リバイバルと見るよりも、先述の「パッケージ」のように、「インターネット接続サービス」が“インフラ化”し、その上で展開される「オンラインサービス」が主役になろうとしている潮流の一部として捉えたほうが正しいだろう。

（佐々木真之 インターネットマガジン編集部）

資料4-2-4 国内の無料プロバイダー一覧

サービス名	運営会社	URL
オーリック	オーリック・ウェブ・ジャパン	http://www.auric.co.jp
Freecom	トライ・ネットワーク・インターナショナル	http://www.freecom.ne.jp
Freeway	トライ・ネットワーク・インターナショナル	http://freeway.try-net.or.jp
HuDINCLUB	ヒューディン	http://www.hudin.ne.jp/club/
livedoor	ライブドア	http://www.livedoor.com
Shes.net	アスキー	http://www.ascii.co.jp/shes/
ValueNet	ヴァリュエインターナショナル	http://www.valuenet.ne.jp
ZERO	ゼロ	http://www.zero.ad.jp

出所 各社資料を元に編集部で作成



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp